

【オーストラリアの金融政策(5月)～政策金利を据え置き、直近の物価は市場予想を下回る～】

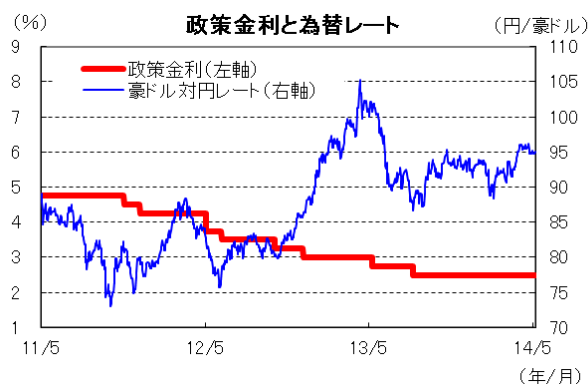
<ポイント>

- ・豪中銀(以下、RBA)は市場の予想通りに、政策金利を過去最低水準の2.50%で据え置きました。
- ・賃金上昇が鈍化するなか、向こう2年間の物価は年+2～3%の中銀目標に合致するとの見方が示されました。
- ・豪ドル高へのけん制は、昨年と比べれば控えめなものに留められており、豪ドルは底堅さを保ちそうです。

1. 金利据え置き、豪ドルの水準へのけん制も控えめ

RBAは6日、市場予想通りに政策金利を2.50%の過去最低水準で据え置くことを決定しました。声明では、金利をしばらく安定させることが適切との方針を維持したほか、向こう2年間の物価は年+2～3%の目標と合致するとの見解が示されました。

豪ドルについては、「歴史的に見れば高い水準にある」と言及するに留め、強いけん制は避けました。

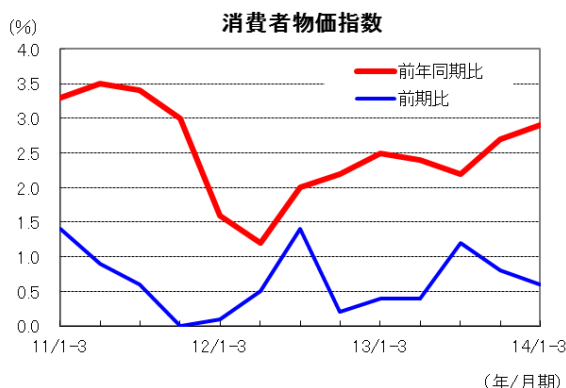


(注) データは2011年5月1日～2014年5月6日。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

2. 直近の物価は市場予想を下回る

4月23日に発表された1-3月期の消費者物価指数(CPI)は、前年同期比+2.9%、前期比+0.6%となりました。市場予想(ブルームバーグ集計)をそれぞれ0.3%、0.2%下回りました。

豪州統計局によると、CPIの集計対象は「貿易で代替可能な分野(全体の約4割、為替の影響が大きい)」と「不可能な分野(同約6割、主に国内要因で変動)」に大別できます。そのうち代替が不可能な分野は、これまで前年同期比+4%前後で推移してきましたが、1-3月期には同+3.1%と、2009年10-12月期以来の低水準となりました。これは賃金の上昇ペースが鈍化するなか、国内からの物価上昇圧力が落ち着いてきたことを示すものです。



(注) データは2011年1-3月期～2014年1-3月期。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

3. 今後の市場見通し

物価上昇率は、一時的と見られるものの、誘導目標上限に近付きました。RBAは当面、昨年のような豪ドル高への強いけん制は行わず、国外からの物価上昇圧力に配慮しそうです。RBAは政策金利を当面据え置き、今後も物価を注視すると思われます。

債券市場では、景気が緩やかな回復基調にあるとの見方を背景に、債券価格の上値は抑えられています。ただし、相対的に高い金利水準や信用力が豪州債券への需要を支えており、債券価格は今後も一進一退となりそうです。

為替市場では、仮に豪ドルが一段高となれば、RBAがけん制姿勢を強める可能性が高まり、上値は抑えられやすいと思われます。中長期では、相対的に高い金利水準、豪ドル建て債券の高い信用力、主要な貿易相手である中国景気の高めの成長などが下支え材料となり、豪ドルの底堅さは維持されそうです。

弊社マーケットレポート

検索!!

2014年04月25日【デیلیー No.1,854】最近の指標から見る豪州経済(2014年4月)

2014年04月01日【デیلیー No.1,834】オーストラリアの金融政策(4月)

2014年03月24日【キーワード No.1,293】中国鉄鋼業の動向と「鉄鉱石価格」の下落(アジア)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意(リスク、費用)】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等(外貨建資産には為替変動もあります。)の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用…申込手数料 上限3.78%(税込)

…換金(解約)手数料 上限1.08%(税込)

…信託財産留保額 上限3.50%

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用…信託報酬 上限 年 2.052%(税込)

◆その他費用… 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用(それらにかかる消費税等相当額を含みます。)、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※ なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託(基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。)における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2014年4月1日現在〕

- ◆ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- ◆ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- ◆ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- ◆ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- ◆ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- ◆ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ◆ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



三井住友アセットマネジメント

三井住友アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会